

高等学校グランドデザイン会議第2回検討会議概要

日時：平成18年7月20日(木)

13:30～15:30

場所：青森県観光物産館アスパム 岩木

<出席者>

蛇口議長 友田副議長 相川委員 飯田委員 大久保委員 角田委員 加福委員
窪寺委員 櫻田委員 佐々木(昭)委員 佐藤委員 高山委員 豊川委員 野呂委員
藤井委員 前田委員 三上委員 山田委員

開会

司会

それでは、定刻になりましたので、只今から「高等学校グランドデザイン会議 第2回検討会議」を開会いたします。

それでは、議長に議事をお願いいたします。

議事録の確認

蛇口議長

本日はよろしく申し上げます。まず、検討会議並びに専門委員会の議事録につきまして、事務局から何かありますか。

事務局

【事務局が、配付資料に基づき説明。】

蛇口議長

ありがとうございました。特に専門委員会の方では、内容的にも非常に良い発言がされたのではないのでしょうか。あるいは、この前の検討会議と併せて、相当程度の議論が出たのかなという印象さえあります。

審議

蛇口議長

これから審議に入りますが、その前に、A委員の御意見にありましたが、この会議を進めるにあたって法的な制限やポジション上の制約などがあるのかどうかについて、事務局の方からお願いします。

事務局

それでは、何点かお話しさせていただきます。

制限・制約とは意味が少し違うかもしれませんが、公立高校と私立高校の関係のことです。本検討会議に対しては、県立高校の平成21年度以降の在り方について諮問していますので、基本的には県立高校に関して検討をお願いしているところです。議論の中で私立高校について触れることも多々あるかとは思いますが、私立高校についてはそれぞれの設置者が建学の精神に基づいて学校を設置されていることを尊重できればと考えています。

第2点です。現在青森県においては、平成16年度から平成20年度を実施期間とする財政改革プランを実施しているところであり、大規模施設等について新規着工はしないという大原則の下に県政が進められています。先程も申したように、本検討会議では平成21年度以降の県立高校の在り方について検討していただくのですが、我々としては現時点で県財政の平成21年度以降の確かな見通しは立てることができない状況です。従って、学校の新設等の御助言・御提言をいただいても、いざ実施計画となった時に実現が難しいと考えています。

第3点は、1学級あたりの生徒数についてです。これまで農業高校、工業高校や、3学級以下の普通高校の一部等については学級編制の弾力化を行っており、基本的には1学級あたり40人のところ、1学級あたり35人としてきました。これから会議を進めていただくにあたっては、原則として現在の姿を踏まえていただきたいと考えています。これを国の標準で定めています40人に戻すという可能性はあるにしても、更に弾力化を進めるとか、1学級あたりの人数を更に少なくするという想定はしていません。

大変恐縮ですが、この3点について御了解いただければと思います。

蛇口議長

私立高校との関係についてですが、要するに75：25の比率を前提として守って行くということと理解して、次に進みたいと思います。

それでは審議に入るのですが、もう1つ大きな問題提起がB委員からありました。平成11年度には3つの重要視点がありましたが、今回はどのような視点を重視して始めるのか。始めるにあたって、そういう視点をしっかり打ち立てておく必要があるのではないかという御指摘がありましたので、私も前回の重要視点を見てみまして、皆さんと専門委員の貴重な御意見を私なりに咀嚼し、A4版1枚の資料に書かせていただきました。皆さんの非常に熱心な御発言は何を目的・狙いとしているのかということ、やや民間寄りの視点で恐縮ですが、教育論よりはむしろ社会的な面から皆さんが気になされているのはこの辺かな、というのを7点挙げてみました。それが黄色で囲んだもので、その横に関連する皆さんの御発言を挙げてみました。

左側が競争心、向上心、逞しさ、財政・効率化等で、少しくールですが非常に重要な視点を挙げてみました。右側は思いやり、意欲を大事に、環境・自然保護といった3点を挙げてみました。それから、皆さんは学校組織論を非常に気にしていらっしゃるということで7つ目に挙げました。これに沿った形で皆さんの御意見を分けるとすれば、

色々な所に絡み合いがあるのですが、例えば市部を4～8学級、郡部は1～2学級で良いのかということは、我々検討会議がどの視点を重視して、一応の方向付けをしてみた結果そうなるということが可能なのではないのでしょうか。色々な重要視点がありますので、7つプラスアルファでも良いのですが、これから総合的に判断していただき、検討会議の1つの結論を導くための材料にさせていただき資料です。

平成11年の報告書はどうだったかと言うと、これも非常に優れた報告書でしたが、その3つの重要視点は、立派な教育論の視点だと私は理解しました。平成11年の現実の状況は、国際化・情報化・高度技術化・少子高齢化等が顕在化された時代でしたが、まだゆとりがあり切迫感がない時代でした。ただ、教育論的な重要視点からはあまり繋がらないと思うのですが、4～8学級程度が望ましいという結論が導かれ、しかも校舎制の方向性も出され、そういう学校が1学級に満たなくなったら廃校を検討する、という所まで導かれていました。

しかし、今回まさに我々はその問題に直面しておりますので、こういう資料を準備させていただきました。これから「第2回検討会議 資料」に基づいて、1つ1つの結論を出すのであればどうなのか。あるいは今日出すべきではないのか。あるいはある程度の方向付けをしておくのが本日のメインテーマです。大変重いテーマではありますが、一応の結論を出しながら、会議時間が少し長くなっても、一定の方向性を打ち出して行かなければいけません。1つでなく複数でもいいのですが、何らかの方向性が出ないことには、専門委員会へどういう方向性で検討してください、とお願いできません。検討会議の意義というのはそこにあると思いますので、1つでも複数でも方向性を打ち出す努力をしたいと思いますので、皆さんの御協力をお願いします。

今までの所で、皆さんから御意見はございますか。私のやり方は民間の経営的な視点である訳ですので、皆さんには耳慣れないかもしれません。ここからの議論では、本当に4学級でもいいのか、あるいは2～1学級では何故だめなのか、ということとは定量的には決して導かれませんが、どの視点到力点を置くのかによって、皆さんのある程度の方向性は出るのでと期待を持っています。御意見があればお伺いしておきます。それから、B委員の問題提起をこのように切ってしまったのですが、何か御意見があればお伺いします。

B委員

大変ありがとうございます。私は前回の報告書を見た時に、その核となるべきものがどの時点で話し合い進められたのか作業手順は分かりませんが、実際の結果として見えています。それならば、早い段階で確認してから進んだ方が錯綜しないで進めるのではないかと、という意味を持って提案しました。さすが委員長、このようにまとめていただけるとは思いませんでした。

ただ、今となっては平成11年に出された報告書にもまだまだ改正しなくてはいけない所がたくさんありますので、その3つの視点を今回もそのままということでは決してないでしょう。その後の10～20年を見据えてやるとすれば、今後の社会をどういう方向へ持って行くのかと併せた形で打ち出していかなければいけません。実施計画を作った時には、それが既に遅かったということになるかもしれませんので、

そういう意味で提案しました。どうぞよろしくお願いいたします。

蛇口議長

平成11年の報告は実際にどうだったかと言うと、私が作った資料の右下の4つの項目に基本的な力点を置きました。家庭・地域社会との連携を深めよう。転学・転科の弾力化を行い、進路志望の変更に対応できるようなシステムを作ろう。これは大変重い方向性だったと思います。それで、おそらく実際には取り上げられなかったのではないかと思います。総合学科、特色ある学科・コースは実際に打ち出され、これは相当程度浸透しました。また、普通科比率のアップという問題はこの時からありました。

そういうことで、今回の重要視点をどこに置くかと言うと、平成11年の報告書も全然間違っていないし、非の打ち所がないとは思いますが、それだけでは我々はちょっと足りないなというのが、私のやや乱暴かもしれませんが新しい重要視点の例です。これに付け加えたり削ったりするのは、皆さん御自由にお願いしたい。それでは、是非も含めまして審議を進めさせていただきます。

「第2回 検討会議資料」を見てください。諮問事項に関して、各専門委員会に調査・検討を依頼する内容はこのようになりましたので、検討に入っていただきたいと思えます。 から までありますが、検討会議及び各専門委員会の意見で特徴的だったのは、これらを1つ1つぶつ切りにして議論しても始まらない、全体をどうするかというものではないかという御意見がありまして、私もそのとおりだと思いました。しかし、本日の会議では、例えば適正な学級数についてでも、他との関連がないと皆さんは発言できないこともあるかとは思いますが、他との関連についての議論は留保することを前提に、一応それぞれについて進めてみたいと思えます。そして、途中まで進んでまた戻るということでも良いのではないかと考えています。

まず、1学年あたりの適正な学級数についてですが、ここに書いてありますように少人数の学校でもなんとか残したい意見と、少なくとも4～8学級ないと様々な観点からも旨く行かない等の意見がありました。私の資料で言いますと、競争心、向上心、遅しさ、学校組織論の観点からも、相当な学級数が必要なんだというのがおそらく多数意見ではないでしょうか。結論は出しませんが、皆さんの御意見を総合するところなるのではないかというのを私が申し上げますので、先程も申したように留保条件付きで議論のたたき台にしたいと思えます。

適正な学級数は、市部では4～8学級、郡部では3学級程度がここ10年においても適当ではないでしょうか。また、情操教育や実践力重視という観点からも、1～2学級でも良いのではという議論を完全に排除するのではなく、非常に良い点もあるので、それをこれから学科・コース、職業学校等を検討して行く中で、色々なことを議論し、地域自身の意見も含めて解決策がないかを探るという方向性にしたいというのが私の私案です。

これだけについて意見を聞かれても困るということもあるかとは思いますが、何か御意見がありましたらおっしゃってください。これは私の資料にもあったのですが、私も全くの素人でしたが、1～2学級の学校も維持した方が地域社会にとっても良い

のではという気持ちで参加しましたが、皆さんのお話を聞いてそうはいかないんだなと考えるようになりました。地域社会からという視点も大切ですが、生徒達の将来を思い、まず初めに生徒の立場を考えると、やはり最低限の学級数は必要なのだと思います。私の資料で言いますと、優しい右側からクールな左側へ移って行った、というのが私の思考過程でした。何か御意見ありますでしょうか。

C委員

基本的には今の御提案で良いだろうと思いますが、こういう青森県の地域の状況があり、山間部があったりする訳です。例えば下北の大間からむつまでの通学は大変なように、地域的にどうしても通学ができないということがありますので、地域性を考えやはりここには高校生を育てる場所が必要だという時には考えてやらなければいけないだろうと思います。あるいは、通学できる範囲なのか、交通施設があるのかを最低限念頭に置いて検討することが必要でしょう。

蛇口議長

まさに、下北をどうするのか。津軽の方でも私学がないところをどうするのか。下北での私学との連携を視野に入れた検討をするべきかどうかという議論が、後で必ず出てきます。それを条件として前に進めたいと思いますので、また戻っても構いません。

D委員

西北五地区の学校を経験したのですが、郡部では2割弱くらいが授業料の免除を受けており、割合が非常に多いです。ですから、5年後10年後に経済状態がどうなり、その経済状態が家庭に波及し、家庭から子どもに還元されて行くかが見えないのです。郡部では、経済的に立ち行かなくて地元にいざるを得ないという生徒もいるのです。中学の報告書を見ると、近い学校に通うようになったと書いていますが、どんな理由で近い高校に進学するようになったのか不明でした。1~2学級は全部残すという形ではなく、ケースバイケースで考えなければいけないでしょう。1~2学級だと、現場では色々な弊害が多いのも事実ですから。

蛇口議長

原則を決めても、全部それで行くというのはまさに至難の技だと思います。また、正しいとも思いません。やはり、様々なケースバイケースで行政で上手くやっていただくことを前提にしないと、どこまで議論してもまとまりません。大変良い御意見でしたので、その辺を踏まえて条件付の学級数ということにしたいと思います。学級数だけで終わる問題ではありませんので、後でまた学級数に戻る形で結構でございます。

それでは、2番目の普通学科と職業学科と総合学科の割合に移ります。ここで御意見が出ましたのは、総合技術学校の設置はどうか。総合学科については普通科の中で拡充するのではなく、工業と商業が連携して運営できないか。中学校の先生の立場からは、目的がはっきりしないように見えるので、普通科のまま内容を工夫できないか。

これが非常に整理が難しいのですが、私の私案を申し上げますと、市部では4～8学級ということ的前提にすれば、市部の職業学校ではそのまま良いことになり、高専化等の議論は別にしますと、それは考える必要はなくそのまま伸ばせば良いのではという方向性になります。問題は、4学級に満たない職業学校をどうするのか、あるいは郡部で3学級に満たない学校をどうするかです。対応としては二つあると思います。普通科中心で、職業学校、総合学科を組み入れて行くという方向性と、普通科を中心に据えず、弘前実業や総合技術高校論のように、実業的な学校が一体化して3学級以上を目指す方向性。そういうスタンスもある。そういうことで、我々は専門委員会に地域の実情等を調査の上でどちらが良いのか、一つの結論を出してくださいということで良いのではと思います。ここで、普通科中心で総合学科そのものが旨く行っている所もあるという記述もありますが、総合学科そのものは財政上の問題もあり、生徒のニーズに対応して行くためには普通科があった方が良いのではないのでしょうか。そういう意味で、普通科を中心として職業学校を組み入れるという議論について、皆さんどのようにお考えですか。E委員から見ると、普通科が中心になるべきでしょうか。

E委員

私の所で見ると、例えば工業高校がより大学進学にも力を入れている一方で、普通高校が総合高校という形で特色を出そうとしています。それであれば、良い所を一緒にして行くように、工業高校の中に普通科的な科を置いても良いのではないのでしょうか。そういうふうに合わせて行けば、本当の総合的な高校になって行くのではないのでしょうか。

蛇口議長

工業高校の中に普通科を作るということでしょうか。

E委員

普通科を合体するという感じでしょうか。

蛇口議長

工業も農業も普通も全部一緒と言うと、総合学科に近い感じなんではないでしょうか。なるほど。この点について、現場の校長先生の方から何か御意見ありますでしょうか。

F委員

まず現状を整理すると、工業の生徒の中で大学進学も含めて工業関係にそのまま進むのは半分くらいです。残りの半分は、他の産業界で働くことになるというのが1つあります。それから、進学が4割くらいで、その半分が大学進学で残りが専門学校という比率です。どこでも大体一緒のようですが、4割くらいが上に行くという現実があります。

1つ整理しなければいけないのは、工業高校で生徒に何を教えて欲しいと雇用側が

望んでいるかということです。実は、産業構造が変わったことも含めて、決して技術や技能を高いレベルで取得して欲しいとは望んでいません。企業側は、むしろ人間性や一般的な基礎基本をきちんとして欲しいというのが圧倒的に多いのです。その点が非常に良くできているのが東北、特に青森県の学校は特に良いので是非欲しいというところが多い。そういう現状の中で私が思うに、工業高校は昔と違って物作りという手段を使って人間性を育てる、選択肢を増やしてやる、ということが目的で、技術や技能を身に付けさせること自体が教育ではなくなっているのではないのでしょうか。ある意味では総合学科的な、入学してから選択肢を増やせるような形です。社会に出て行くということでは、農業も商業も一緒だと思いますので、工業と商業が一緒になってもいわゆる職業学校という格好で、その中で商業的な部分、工業的な部分、農業的な部分を軸に教育して行くということができるのではないのでしょうか。何を教えるかと考えた時に、人間を育てるということを目的とするのであれば、そういうことも可能なのではないのでしょうか。

蛇口議長

非常に論点が難しいのですが、例えば八戸工業がますます大きくなるのは誰も望まないでしょうが、南部工業等の地方の工業高校が3学級を満たすために連携したり、色々な所と連合したり、一体になったりしたとします。そうすると、今のE委員の問題提起のように、工業高校と普通高校あるいは商業高校が一緒になってもその方が良いのかという議論がありますが、皆さんの御意見はいかがでしょう。郡部が3学級以上というのはこれから議論しますので仮定の話ですが、どうしても問題が重なってきます。たまたま南部工業は近くに三戸高校等がありますが、一緒になり方や一緒にするべきかという問題は別です。

G委員

三戸の名前が出ましたので。前にも言いましたが、できれば最低4学級は欲しいです。それは生徒の家庭に掛かる経済的な負担があります。また、三戸高校は普通科と商業科がありますが、普通科は専門学校を含めて7割くらいは進学を希望しますが、国立大学等を目指すにしても教科の先生が不足する場合があります。3学級規模での配置人数は決まっているので、最低5学級くらいないと全部の教科の先生が揃うはずがないのです。今、工業高校と商業高校が一緒になったとしても、何学級になるかは分かりませんが果たして先生の配置が可能なのでしょうか。それを考えると、ただ単に統合はできません。普通科は普通科で統合するべきです。農業と工業が一緒になっても良いのですが、先生の人数がどうなるのだろうかというのは疑問です。隣にPTA関係の方もいらっしゃいます。親の負担がどんなものかも聞いてみては良いのではないのでしょうか。

蛇口議長

普通科は普通科同士でということを書いてますと、なかなか統合が難しくなり学級数の維持がむしろ難しくなるかもしれませんね。では、市部をどうするか、郡部をど

うするか、というような学校の数の問題も絡んできますので、次で議論することしましょう。

逆に、実業高校は実業高校同士で統合・連携した方が良いのではという意見もありましたが、これを押す先生はいらっしゃいますか。要するに、商業・農業・工業の小規模校が前提ですが、実業高校、工業を除く総合技術高校、工業を含む総合技術高校、こういったものを指向せざるを得ない時代ではないでしょうか。また、その方が生徒のためにもなるのではないのでしょうか。

B 委員

少し視点が違うかもしれませんが。実業高校系へ行くか普通高校へ行くかという時の、中学校の子どもへの指導の仕方として、中学校の段階で自分の将来をどうするかというのが進路指導の大きなポイントになります。どっちにしてもいいような形で進学させてしまうことが、子ども達の学校を卒業したら職業人として働くという意欲を少し減じるのではないかと考えています。そういう意味では、中学校の段階で普通高校に進むべきか、実業高校へ進んでそういう仕事をして行くのかという意識をちゃんと持たせていかないとイケません。後で決められる。いつか誰かが決めてくれる。自分はその波に乗って行けばいい。このように子ども達の精神性の自立度がどんどん低くなっている現在においては、自分も社会の一員として働くんだという意識を持たせる意味では、この方向、あの方向、自分はどうしようという将来像をしっかりと掴ませてやることを考えた時には、普通高校と実業高校は分けるべきだと思います。

蛇口議長

職業人には商業もありますよね。最後の 7 番目で議論したいと思ったのですが、連携の問題は、横の連携ではなく縦の連携を論ずるように事務局に言われています。しかし、子ども達のことを考えるとどうしても横の連携も重要です。例えば商業と農業では、商業高校でも農業ビジネス的なことをやっているように、何らかの関連があるので、少なくとも連携はできるという時代でしょう。実業高校か普通高校（進学校）か。そういうふうに分ける方がまだ良いと思います。そうすれば、実業高校であれば連携・連合の可能性が出てくるのではないのでしょうか。

確かに中学校を卒業した時点で進路がみんなしっかり決まっているのが理想ですが、なかなかここらへんが難しい。現実問題として、高校 1 年になってから方向性が決まり、自分で決めて自立して行く。それに総合学科は適しているという意見があります。また、色々な希望の変化に対応するような柔軟なシステムを作るということは平成 11 年の報告書でも言われていますが、現実問題として非常に難しいです。それであれば、転校・転学は難しいけれども、一緒になった学校ができた方が生徒達にはあるいはプラスではないのでしょうか。その辺について、何か御意見ございますか。

H 委員

このような時代になると、普通学校、職業学科、総合学科、という区分で高校を考えること自体が果たして適切なのかという問題があります。先程議長がおっしゃった

ように、普通科系と職業学科系の統廃合についてもあり得る話だろうという感じはします。少子化対応だけを前提に考えるなら、既存の学校の統廃合は避けられない状況になって行くでしょうし、統廃合する結果として、新しいタイプの学校を考えざるを得ないでしょう。市部であれば職業系同士の統合が考えられるだろうし、町村部であれば普通科系と職業学科系との統合ということも、新しいタイプの学校としては大いに考えられる気がします。割合云々を考えるような時代ではないという気はします。

蛇口議長

大賛成です。普通高校と言った場合に、皆さんが考えていらっしゃるのはおそらく進学校ではないでしょうか。それと、普通の高校とは分けて考えなければいけないような時代です。普通の普通高校は、職業学校的な存在でもいいのではないのでしょうか。これが正しいとすれば、実際比率が増えても決して時代の流れには反しません。実際に青森県を背負って立つ人間は、そんなに頭のいい人ばかりではなく、強く逞しい人間がたくさんいた方が良いのかもしれない。進学校は別格として、それ以外の普通高校の生徒達は職業学校的に育てる。また、工業高校も半分は本気で高専並にやるが、残りの半分はビジネス学校的な存在、という形でも良いのではと思うのです。そうであれば、ますます職業学校の色合いが増えて行っても良いのではないのでしょうか。ビジネス学は何でもありなのです。商業、農業、水産もあります。こういうふうに、大学が縦の高大連携の1つの核となって、高校統合にも寄与していけるような雰囲気が出てくれば面白いですね。

割合というのはそれほど気にせず、実際の職業学科の在り方、総合学科の在り方、普通科との連携・連合の在り方を併せて考えて行く、というのが一応の方向性でしょうか。具体的には、専門委員が色々な地域へ行って、可能性があるとするればどのような方向性で実現させるのか考えていただきたい。最初は連携から始めて、あるいは連合みたいなもの、次には統合はどうだろうというふうにも考えていただきたい。

次に適正な学校数という、本丸のような所に入っていきます。私のペーパーでも郡部統合、市部統合、私学分業と書いてますが、郡部の学級数が減ってきて本校に統合されるような傾向にあります。広域の核となる学校を作り、普通高校でも職業高校でも統合して高校を作る。そういうふうな郡部統合もあるでしょう。一方、市部も本当は6学級が必要だと言う方もいます。4～8学級が適正だと言っているが本当は6学級だと。それに満たない学校は思い切って廃校にして、そこを私学に寄って立つような、25%を展望できるような協働の在り方が考えられます。郡部も市部も統合して行くというのも、1つの方向性ですし、そうでなければこの少子化には太刀打ちできません。

また、地域社会とどう関わってくるか。これを考える時に、例えば下北のように川内や大畑が、もしむつに統合されたとします。すると、みんながむつの学校に行けるのかということです。必ず公立高校に行けない人が出てきます。勉強が理由かもしれませんが、経済的な理由かもしれませんが、そういう人を切り捨てるのかという議論があります。今どうなっているかというと、野辺地までスクールバスで連れて来ている私学があります。完全に赤字です。野辺地西高校なのですが、私が着任してこんな

赤字のことは止めろと言ったのですが、どこにも行く所がない生徒達をどうするんですか、と言われました。今でもまだ赤字を垂れ流しているが、なんだかんだで私学もいい所があるなと思いました。なくなった場合や、初めからない場合にはどうするかを県教委としてある程度考えてもらわなくてははいけません。これは、経済的な負担の問題だけではなく、不登校等の色々な問題と関係する気がします。そういう人達の救い方なのです。

しかし、それでは結果的に廃校になった地域に定時制高校などを新設するのか、というように次の問題が出てきます。従って、こういうことを全部含んで、郡部は市部に統合されるのではなく、その広域の中間くらいに統合する案が良いのではないのでしょうか。当然これもケースバイケースですが、その辺も入れて議論していただきたいです。市部の統合はできれば6～8学級へという皆さんの熱意に完全に感化されてる感じなのですが、他は思い切って調整するという方向性しかないのではないのでしょうか。

郡部の統合にあたっては、地域社会の熱意とか、NPOがどうするかとか、コミュニティスクールじゃないけども、15人20人単位のコミュニティのハイスクールはあり得るのか、等の色々な議論があります。教員の給料が半分であればできないこともないのでしょうが、また、県立でという考えを離れて、町立、地域立、NPO立ということの可能性も含めて議論する用意が必要です。単に郡部も市部も統合して行くので御理解を、と言っても大変だと思います。特に、下北と津軽へ行く委員は大変でしょう。だから、全部含めて議論した上で、県民が納得できるようにするのが我々委員の役割です。

I 委員

議長がおっしゃっているように、広域の中間に核となるように統合するというのはいいい方向性かと思えます。青森、弘前、八戸の三市の人口ピラミッドは全国の人口ピラミッドに割と近いが、それ以外の周辺町村の人口ピラミッドはマッチ棒のような形になりつつあると指摘する先生がいます。マッチ棒の火をつける部分が昭和1桁代生まれと言われていて、それ以外が細くなっており、このまま進んで行くと地域コミュニティの崩壊が非常に心配されています。

今議論されているように、郡部の高校はコミュニティを支える1つの拠点となっているのではと思っています。そういう影響をきちんと考えないと、非常に厳しいでしょう。そういう意味では、議長がおっしゃっているように、統廃合はするのだけれど、盛れる所は何らかの形で救う。そういう準備というか、方策を考えた方が良く気がしました。

蛇口議長

ぎょっとするマッチ棒理論ですね。適正な学校数は誰も減らしたくないと思っているのですが。

J 委員

基本的には統廃合の理論で進めて行くというのは理解できます。ただ、保護者とし

て私の所属はいわゆる郡部高ですので、地域の中にある学校は地域の中で非常重要的な役割をしているのは事実です。そして、先程のお話のように、まとめてしまうことは可能なんでしょうけれども、まとめることによって他にどこにも行くことのできない生徒も出てくることも考えなければいけないことです。

話が戻るかもしれませんが、普通科があった意味は、進学校とそうじゃない普通科というのがあって、それぞれ意味があったのではないのでしょうか。郡部の普通高校は進学校でない普通高校が多いような気もしますが、そういう生徒達が行く所をどう救うのでしょうか。保護者の経済的な部分も考慮して行くことも大事だと感じていますので、広域の中間でどうまとまって行くのかなと少しイメージできませんが、非常に保護者の立場では心配されることが多いです。普通の普通科へ通う生徒達をどうやって救うかと考えています。

蛇口議長

本当に心から悩ましい問題です。ぱしっと答がないと思います。地域を歩いて回って、対話するというのは本当に大変だと思います。

八戸に近い所で言いますと、下田と百石が合併して六戸が合併構想から漏れたとします。漏れても何でも、その周辺を広域で考えて1校で済みます。また、合併しようがしまいが、高校の行政区みたいなものをある程度作って行かなければ、財政的な問題もあります。自治体として独立しているからと言って、えこひいきはいけません。

それだけの力が県教委にあるかと言うと難しそうだなと思いますが、そこまで考えなくてはいけません。県お得意の人材育成の戦略チーム的な考えでは、どこでもいい訳です。全体として手厚くして行くしかないのではと思います。我々はその方向で意見を集約すればいいと思います。

郡部は郡部で統合した方がいいのか、ケースバイケースで郡部と市部もありなのか、について何か御意見はありますか。

K委員

参考になるか分かりませんが、5～7年前に山形県の上山で農業高校、家政科、商業科の3校が合併して上山明新館高校と言う山形県一規模が大きな学校ができました。合併する前はどの学校も定員に満たない学校だったが、地域の中にそういう総合的な学校を作ったことで、非常に元気を取り戻して高総体などで活躍していると聞いたことがあります。やはり、関係する市町村で学校に補助金を出し、おらが学校じゃないけど、おらが地域の学校なんだぞ、山形県一なんだぞ、というふうにすごく活力を持った噂を聞きましたのでそういうことを考えられないのでしょうか。南郷高校でも八戸の人のためにスクールバスを出して、南郷へ来る生徒を迎えに行ってるという話を聞いたことがあります。村の補助金という噂も聞きました。県は県で対応する部分と、それ以外では市町村とタイアップしていけばそういうことも可能になるのではないのでしょうか。全て県教委の責任では大変でしょうから、地域の市町村と県が旨く分担しながらその地域の学校を作ろうとすれば旨く行くのではないのでしょうか。

蛇口議長

そういうことですね、広範に渡る検討項目があるので、県教委のみならず私学も含めて、県全体として方針決定に参画して下さるよう要望します。

また、大変大きな問題ですので後で戻りますが次に進みます。校舎制から閉校へという流れがあるのならばどうしてするのかということですが、やはり生徒数が少ないので教育効果の効率が悪い、財政効果がどうか、というネガティブな意見が多いです。校舎制をそのまま残すところという問題もあるようです。一方、校舎に特徴を持たせてはどうか、とか、歴史は残したいとは誰もが思うところですが、先程の議論で出ましたように職業学校的な部分と普通科的な部分が一体になってような地域統合の方向性で出てくるのかどうかだと思います。L委員いかがでしょうか。

L委員

保護者の気持ちと校舎制のことについてお話ししたいと思います。中学3年生の保護者、あるいは本人が高校を選ぶ場合に基準とするのはやはり自分の学力です。私は郡部に住んでいるのですが、交通や経済等の問題もあるでしょうが、地元にも高校はありますが遠距離でも青森市の学校にやりたい気持ちがあります。たとえ汽車の便が悪くても、そういう場合は両親が迎えに来るように、やはり学力を中心にして高校を選んでいく気がします。

校舎制についてですが、1学級でそこに通う子ども達は本校との差があるだろうし、いろんな行事を本校で行うと聞いているが、本校で馴染んでやれるのかなという心配があります。いざ卒業した場合でも、本校の誇りを持てるのかなという気がします。校舎制になると、全ての教科の先生が朝から晩までいる訳ではないようですので、色々な面で先生と子ども達のコミュニケーション、生徒指導等の面でよくないなという気がします。私自身は、校舎制よりは最低6学級以上欲しいなというのが意見です。そのために、郡部の方こそ中高一貫校を進めたら良いのではないのでしょうか。

蛇口議長

中高一貫校と言うのは高校を残せということが前提になっていると思うのですが、校舎制でも連携型はあり得ると思いますが、なくなる可能性があります。併設型となるとずるい考えかもしれませんが、高校は残すんだというのが大前提になるかもしれません。連携型か併設型かについての話しはまた後でしますが、市部への統合なのか、確かに1学級だとコミュニケーション能力に良くない等色々な問題があるのを、どう解決するかという点と、本校への統合と広域での統合がどちらが良いと思うかという点です。

いずれにしてもどこかに集約し、どこかなくなるのですが、郡部にも残したい気持ちがありますよね。

D委員

確かに山形は新しい学校を作りましたが、それは県教委からあり得ないとされているので皆さん苦しんでいます。高校は町の教育の中心で町民の誇りですので、ステー

タスを町民も求めているのは確かです。そういうプラスの部分と、小規模校の弊害を天秤に掛けて、どちらをカバーできて行くかが問題だと思います。地域の学校として意識を変えていければ最もいいことですし、そういうことが社会教育の中で可能であれば小さな学校をまとめて市町村同士で何かをやる。1～2学級の学校よりも、町と町が、あるいは普通科と職業学校が合併しても、4～5学級の学校の方が子ども達が教育から受ける魅力や成長過程への影響力を考えますと、私はプラスが多いと思います。

M委員

統合された学校でも、総合選択制のような普通科もあれば、専門学科の色々なコースもある、というような学校があれば一番良いと思いますが、県の考えとしては新設の学校等は考えられないということですので、非常に悩ましい。やはり一番大事なのは、子ども達を視点に考えなくてはいけないことだと思います。確かに学校は地域の拠点でありコミュニティーの場であり、そういう点で非常に大事ですので、地域の人にはなんとかして学校を残したいという意識があるのです。しかし、子ども達の立場からすると、少人数の中では教育効果の面等で劣ってくる、あるいは教育組織面で全教科の先生がいない等、問題点が多々あります。そういう点では子ども達にとっては非常にマイナスが多いです。

かつては分校という形でやっていましたが、校舎制は少し形態が違っていますが、いずれにしても、乱暴な考えで申し訳ありませんが、校舎制を導入しても子ども達が減って行くという状況を解消する手だてにはなっていません。どちらかという、今の交通事情を考えると、むしろ本校舎に統合して、県としては交通費の補助やスクールバスを運行する、というふうにして本校に通わせの方がより教育効果があるという感じがします。校舎制とは言っても、財政措置、教員配置、維持管理等の面から見ても、1つの校舎を維持するという意味では同じではないでしょうか。それならば、むしろスクールバス、あるいは無料のバス券を配布する、そういったことのほうがむしろ校舎制により小規模学校を維持するよりは、財政的には効率的ではないかなという感じがします。

蛇口議長

非常に貴重な現実的な意見です。校舎制の学校を維持するよりは、何らかの対処をすべきだということだと思うのですが、現実的な対応の1つかもしれません。しかし、すぐにそうはならないと言うのであれば、地域の中での合併も大きな1つの選択肢ではないかというのが皆さんの意見だとお聞きしました。これを専門委員会に検討をお願いするにあたって、非常に難しいです。最後はケースバイケースで行政が御苦労されるのだと思うのですが、ただ原則論的には、地域の広域の中での合併も視野に入れて地域の方と対話してみようと思います。ただし、地域の人達もちゃんと負担してくださいよ、本当に覚悟はあるのですよねという所まで突っ込んで話さないといけません。それがないと、NPOとの連携や私学との連携はあり得ないですね。そうすると自ずと本校への吸収合併ということになって、郡部には学校が減って生徒数も減っ

て行くことを懸念しています。M委員の言葉を借りると、市部への統合は、結局子ども達のためということになるのでしょうか。

H委員

議長に1つ確認しておきたいのですが。一番最初に事務局から説明がありました3点についてです。県財政の今後の見通しについてお話しがありましたが、先程議長もおっしゃってましたように、それは将来的に行政が行うことであって我々はこの議論の中では県財政の状況を見守りして、自由に話し合ってもいいのではないのでしょうか。今の県財政がこうだからという前提で議論を展開しても、議論が小さい話しになってしまいそうな感じがするのです。余り県財政に捕らわれず話し合うということについてはどうなのか確認しておきたいのですが。

蛇口議長

ただ、皆さん現実問題として気にされてますよね。現実論に立ってどういうふうにやってくるのかをここで議論しないと。平成11年の時には考えていないが、今回は考えざるを得ないのではないのでしょうか。

H委員

平成30年度以降の少子化への対応を青森県の現実のものとして、子ども達をどうすればいいかがテーマなので、現時点での県財政については考える必要がないということベースに考えないと、方向性が固まってしまうような気がします

蛇口議長

要するに、違いは平成11年の報告書は教育論的なものが全面に出ていたが、今は違う重要視点があるのではないのでしょうかということです。全くの教育論であればこの検討会議も違う展開になると思うが、しかし、実際に検討会議、専門委員会の皆さんがどのような話ができますか。これから地域の人達と話す訳ですよ。そうすると、実現する可能性がある、責任がある議論ができないといけません。完全に責任というのはもちろん無理ですが、やはりある程度は現実に即していないと意味がないと思います。もちろん、余り気にするべきではないというのがありますが、全然気にしないというのは、この時代背景で何のための検討会議かだと思います。青森県自体があと20年経ってなくなってるかもしれない。そういう所で、本当に教育論だけでいいのかと考えます。

友田副議長

校舎制というのは、現状で2学級の学校について学級減を実施した場合、1学級の学校をどうするかという平成20年度までを期間とする第2次実施計画の中での制度ですので、それはそれとして、学級の学校を今後どうするかについては別途検討されるという二本立てで考える必要があります。

蛇口議長

我々民間の場合は、教育だろうとすぐに投資と効果で考えてしまいます。生徒の数が減って行くはどうしたってやや厳しい議論になりがちですが、財政的には目に見えている訳ですので、ある程度それに沿ったような議論にならざるを得ません。それと離れた議論ももちろん結構ですが、両立てで行きましょう。

それでは、定時制の今後の方向性ですが、A委員しか御意見がありませんが何かありますでしょうか。

A委員

定時制は昔は経済的理由で夜間定時制だったが、最近何ったお話では普通高校でなじみなくて定時制に編入したとか、そういうケースがあるということでした。そういう意味では、以前と比べて定時制の役割が変わってきているのではないかと思います。受け入れすることも大事なことです。普通高校への編入制度なども含め定時制の在り方を考えて行く必要があるのではないかという観点です。

蛇口議長

事務局も委員の皆さんも、問題点を見つけることができなかつたようなので、基本的には今までどおりでいいのではと思うのですが。何か問題提起はあるのでしょうか。

事務局

問題になるかどうかは別ですが、現状では定時制の学校は中南地区を除いた各地区に1校、中南に3校ありますが、全体として充足していませんので、学校配置がニーズに合っていないのではと考えています。ニーズが全くないという訳ではありませんが、例えば中南地区は、黒石、尾上、弘前中央と3校あります。今の姿でいいと言うのであればそれは結構ですが、そういった教員のマンパワーという部分もありますので、もしかしたら考える余地があるのではないか、問題になるのではないかということで、一応俎上に載せさせていただきました。

N委員

私は併設校におりました。定時制の見方と言うか、確かに昔の勤労学徒ということは全くありません。3割が勤めているにしても、ほとんどがアルバイトで正規の職員としての勤務はありません。そう考えますと、確かに極端に生徒の数も少なくなってきましたので、改めて定時制の在り方を考えてみる必要があるかなと思います。保護者に聞くと、普段家にいる時に何をしているかと言うとぶらっとしているだけで、家の手伝いもしていません。そう考えると通信制という形もありますので、定時制を全部なくするというのではなく、在り方を考える機会にするべきではと思います。

蛇口議長

検討会議ではどんな議論するかは余り出ませんでした。専門委員会で相当突っ込んで欲しいものです。ある程度は、行政マターとしてもいいという結論もあるのでは

と思いますが。あるいは、専門委員会で特にこういう点を考えて欲しいというものを
出して欲しいと思います。

事務局

事務局としましては、是非専門委員会でこの内容についてテーマとして取り上げて
検討していただきたいと思います。検討会議委員の皆さんの許しがあるのであれば、
検討課題とさせていただきたいです。

蛇口議長

それでは、今お話しのありましたように通信制等の様々なバラエティーも含めての
検討となると思います。

学科・コースの今後の方向性についてですが、先程議論した総合学科や職業学校の
方向性の問題を含めて、まず専門委員会の方に今までの実績の検証から始めていただ
きたいという感じを持っています。特色のある学科・コースについては、ある程度の
結果が出ようとしている感じでしょうが、定員割れ等色々な問題もあるでしょう。今
後の学科・コースの在り方については、先程申し上げたように、普通科中心なのか、
あるいは特色のある学科・コースで行くのかということが問題ではないでしょうか。

それから、これも一緒になると思うのですが、7番目の学校連携の今後の方向性に
ついてです。連携型の中高一貫はある程度の実績が出ておりますので、是非検証して
みていただきたいです。

これで、第二専門委員会の皆さんへのある程度の依頼事項の方向性は固まったと思
います。ただし、第1専門委員会へも色々なことを投げかけてきましたし、それを踏
まえて第2専門委員会も厳しいなと感じています。しかし、是非方向性や疑問点でも
結構ですので、色々な専門的な考査から入って、全体としての結論・方向性が固まら
ばいいのではないのでしょうか。そういうことでお願いしたいと思います。

学科・コースの在り方、社会の変化や多様な進路志望に対応する学科・コースの在
り方ということで、言うは易いがこれが非常に難しいです。平成11年の報告書にも同
じような問題設定があるのですが、これについての御意見、あるいは中高一貫の在り
方について御意見をお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

〇委員

第2専門委員会の、前回の話し合いの内容等からまずお話ししたい。6の所は皆様
からの御意見ということで、あとは附属で第2専門委員会の暫定版の資料をお渡しし
ています。その中では、職業高校や総合学科にいらっしゃる現場の先生の生の声、現
状や悩みやこれからどうすれば良いか、色々な話し合いの簡潔なまとめが載っていま
すので後で御覧いただければと思います。

いくつか出てきたことについてお話ししますと、職業学科では専門性を突き詰めて
行っても結局は志願者が少なくなっている。即ち、社会の変化に対応して専門性のある
はずの特色ある学科が学生から見放されている、遅れている、そういう部分もある
のではないかというお話しもありました。また、中学校と高校の情報のやり取り等で

苦労したという色々なお話をいただきました。

結局、これから何年か先のことを我々は話さなければいけませんので、その社会の変化へどう対応して行くかまで考えなければなりません。私見ですが、皆さんの意見の中で、箱物つまり校舎をどうする、先生をどうする、生徒をどうする、ということは大変参考にはなるのですが、果たして10年後、例えば県でやってるユビキタスとか広域化の情報ネットワークでいくと、県の社教センター等で様々な全国の有名な先生が来て意思表示し発信したものを、地域の分校にいても見ることができるとか、変わる社会の手段を極力利用して行くことを当然考えなければいけない。現状で生徒が減って行く、学級数が足りない、先生の数足りない、という大変な時に今のままの延長線上ではなく、どこかでやはり変革の波が来ると思います。そういう波に乗れる部分について、第2専門委員会では話し合ってみたいと思います。

蛇口議長

現実問題としても、特色ある学科の実績についても検証していただきたいと思えます。非常に楽しみにしています。確かに、余りけちな考えではなく、将来や未来像をどういうふうに描くかという所からの発想も大切だと思います。前向きな御提言があればいいと思えます。

併設型中高一貫というのは、これから実施されるのでしたよね。

友田副議長

併設型の中高一貫教育については、来春から三本木高校で実施されるのですが、私の前任校が田子高校であり、連携型を実施していました。郡部型が田子高校、市部型が大湊高校、それぞれの実績が出ていますので評価していただきたいと思えます。連携型の田子については、やはり地域と学校の関わりが非常に大きかったです。地域が危機感を持って今年は定員を満たしたということですので、そういう意味では検証になっているのではないのでしょうか。田子で連携をして感じたのは、地域の伝統文化と言うか、カルチャーセンター的な役割があるということです。例えば、昨年暮れには田子高校が国の代表として韓国に行き、田子神楽のように今なくなりつつある伝統文化を小学生や中学生から引き継いで韓国で発表しました。青森県の文化を考えた時には、確かにそういう意義もあります。地域の文化を担うのは、やはり中学生や高校生です。そういう部分も含めて評価してください。

それから、先程お話しがありました郡部校については、この7月11～12日に東北六県高校長会がありまして、青森県のグランドデザイン会議の参考になるよう議題として提案し、生徒の減少の中で高校教育を活性化するための情報をいただいたのですが、山形や岩手のように同じような状況の他県の研究をして欲しいです。

小規模校につきましては、岩手は四国全体と同じ面積があり、どうしても通えないところは統廃合はしない。ただし、今後何年間等の条件を付けて学校の努力も求めています。田子など連携型を頑張ってる所は評価してやらないといけません。学校経営上とか、地域でもいらないという学校は仕方ありませんが、どうしても距離的・地域的に必要がある所もあります。

蛇口議長

田子高校については、町ぐるみで支援していると聞いています。大学に入ってくる人達までフォローされており、そういう意味では連携型中高一貫教育が活かされていると思います。一方で、問題提起の御意見もあるようですので、その辺をいい方向に伸ばしていくようにまとめ上げればと思っています。

大変難しい問題で、走りながらの意見交換になった訳ですが、専門委員会に検討会議はこういう内容だったことをお伝えしなければいけません。本会議では、種々重要な方向性が議論され打ち出されたと認識しているところですが、ここで繰り返すのではなく、事務局にまとめをお任せしたいと思います。事務局もよろしいでしょうか。これだけはというものがあればおっしゃっていただきたい。事務局もよろしいですね。この方向性をまとめて、皆さんの御了解を受けて専門委員会へ報告してください。

C委員

方針と言いますか、大体事務局からはこういう制約が出てくるだろうとは思っていましたが。やはり、今回我々が作るものは、前回の答申を凌ぐようなものを提出しなければならないと私は思いますので、色々制約はあるでしょうが余り問題視していません。もちろん視野には置いてますが、そういう意気込みで作らなければならないでしょう。今日は、皆さんからたくさん御意見を伺いました。しかし、本当に大変なことだなあととは思っていますが、みんなで智恵を出し合って少しでも応えられるものが作ればいいなと思っています。

O委員

第2専門委員会は、雰囲気非常にざっくばらんで活発な意見が出ていました。私が仕切ると言うか会議をリードできるように、私が暴走しないようにメンバーの方にお願ひしながら、より良いものを作りたいと思います。今日の御意見を参考に、また、専門委員会に伝えて次回の会議での発表に備えたいです。

蛇口議長

地域担当の方も御苦労様です。地区部会は色々なところで開催するんですけどか。

事務局

3地区ありますので、回数は少ないですが部会長と開催方法を相談しながら、各地域で開催したいと考えています。

A委員

抽象的な話で恐縮なのですが、諮問書の理由書に、本県の高等学校教育の水準の維持・向上を図ること、活力ある教育活動を展開すること、高校生が夢を育むことができることと3点書いてあり、この3点を踏まえて答申書をまとめてくださいという一文があります。この3点は非常に大切な事だと思います。専門委員会の皆さんにはこ

の3点を大事にして議論をしていただきたいと思います。是非よろしく申し上げます。

K委員

県立高校の今後の在り方ということですが、先日からこのような会議に出る度に再三言うのですが、やはり、私学のことをどうか考えていただきたいです。生徒急増の時代には、私学を絡めながら頑張ってきました。少子化になったらもう私学の役目は終わった。あなた達の勝手にしなさいよ。それでは旨くないなと思っています。そういうことで、同じ公教育を担う私学を念頭に入れながら、適正な配置についてよろしく申し上げます。

蛇口議長

それではだいぶ長くなってしまいましたが、これで本日の検討会議はこれで終わらせていただきます。事務局へお返しします。

閉会

司会

最後になりますが、次回の会議は12月を予定しておりますが、皆様の御都合もあると思いますので、日程調整のための文書を送らせていただきますので御回答下さるようお願いいたします。日程を確認・調整の上、改めて日時会場等の詳細につきまして書面にてお知らせさせていただきます。

以上をもちまして第2回検討会議を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。